奈良女子大学古代学学術研究センター・研究会

# 福原の時代

# 宗教と和歌

平清盛が摂津国福原を拠点として活躍した時代，奥州では藤原秀衡が平泉を，源頼朝は鎌倉を拠点とし，それぞれがそれぞれの理想郷を築き上げようとしていた．来たるべき地方の時代の幕開けである．しかし一方で全国的内乱や天災，飢饉など平安なる都をゆるがす未曾有の時代でもあった．

その不安定な時代を生きるために，神や仏，言葉の世界の模索や再編が行われた．ここでとりあげる和歌論とは，日本における言葉への問いを記したものである．そこでは，言葉の歴史を叙述するために，日本の歴史や神話が再構築された．言葉が生み出される時は往々にして，人々の既存の概念が喪われてきたことの顕れではなかろうか．そして，新たな宗教的理念は，都市のかたちにも表現されてきた．

神や仏といった宗教と，この時代に多々生み出された和歌論から，福原遷都から鎌倉幕府成立まで，既存の都「平安京」が揺れ動いた当時，すなわち「福原の時代」の混迷期を乗り越えようとした人びとの試みを明らかにしたい．

**日 時**　2012 年 10 月 28 日（日）　13:00～16:30

**場 所**　奈良女子大学Ａ棟　生活環境学部会議室

**報 告**　福原遷都と伊勢

森　由紀恵（日本学術振興会特別研究員）

和歌が詠まれるとき―中世日本紀へ―

石黒　志保（奈良女子大学大学院）

事前申し込みは不要，参加費は無料です．ふるってご参加ください．

連絡先　奈良女子大学古代学学術研究センター
Tel. 0742-20-3779　E-mail　kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp